

学期最後のメッセージ

コミュニティを創る

牲川 波都季

最終レポートではみなさんに「コミュニティ」「コミュニケーション」とは何かについても書いてもらいました。みなさんのコミュニティについての説明からは、大きく二つの特徴が読み取れました。一つは、共通点が多く、遠慮なく過ごせる居心地のいい場としてのコミュニティです。たとえば B ロウ「コミュニティは何か共通点を持っている人々が集まった団体」、E 鈴木「お互いを尊重し合うことができ、自分の存在を認めてくれる居場所」、G 阿部「居心地のいい空間」、H 菊地「気兼ねなく接することができる仲間がいる」というようにです。

と同時に、もう一つまったく違った意味でコミュニティを捉えた人もいました。自分が好きか嫌いに関わらず、作らなければならない、所属しなければならないものがコミュニティで、そこでのコミュニケーションは大変だというものです。たとえば、H 鄭「普通の人は自分がほしくなくてもいろんなところで様々なコミュニティを作って生活する」、I 山木「気まずいことや大変なことも含めてコミュニケーションと言うのではないだろうか」、Q 濱口「コミュニティでうまくやっていくのは大変だ」といった説明がありました。

どうして、コミュニティで生きていくことは、楽しいばかりでなく大変なのでしょう。K 石橋「「コミュニティ」とはそれぞれ別の価値観を持った人たちが、集まった集団のこと」という定義が、このことをうまく説明してくれるような気がします。

コミュニティに属している（と思っている）人の中には何か共通点があるはずですが、しかし一方で、人は一人ひとり違った価値観をもっていて、まったく同じ価値観を持つ人などいません。同じ一つのコミュニティに対しても、ここはこういう場所であるはずだというイメージや、ここをこうしていきたいという思いは、人によって違ってきます。

ではどうすれば、コミュニティをメンバーにとって居心地の良い、もっとよいものへと創っていくことができるのでしょうか。それはまず自分が持っている思いをメンバーに伝えることです。語ってもいいし書いてもいいので、伝えること、そしてそれに対する他のメンバーの意見や自分自身でもう一度考えた意見を踏まえ、また考えまた伝えていくこと。こうしたコミュニケーションだけが、メンバーそして自分の思いをお互いに活かしながら、よりよい思いを創り実現させていくのだと私は思います。

それと同時に、表現することに対するある心構えのようなものも必要だと考えます。

それを私は、「表現観」（牲川，2011）と呼んでおり、「表現観」は以下の四つの要素から成り立つと説明してきました。

コミュニケーション観：言語を使って語り合うことで、自他に新しい発見があると同時に、相互に変化をもたらすことができる。

人間観：一人の人間は、他と比較して優劣をつけることのできない、代替可能な唯一の存在なのだ。

言語観：発見・変容をもたらすような語り合いは、完璧に言語を操らなくても可能である。規範にこだわる必要はなく、言語能力が低く思える人もすべて、耳を傾けるべき考えを持っている。

文化観：ある文化圏ごとにすべての人が同じ考え方を持っているわけではない。したがって一人ひとりと表現し合うことで、その人からしか得られない発見がかならずあるはずだ。

牲川波都季（2011）. 表現することへの希望を育てる——日本語能力教育と表現観教育『早稲田日本語教育学』9, 73-78.

今学期の多文化コミュニケーション入門 II のクラスと、コミュニティ・コミュニケーションの関係はどんなものだったのでしょうか。みなさんが選んだ自分にとって大切なコミュニティのリストです。

<p>日本 東成瀬村民 秋田大学 高校 予備校 日本語学校（ドンズー） 大学の専攻（医学部保健学科 理学療法学，ブカレスト大 学日本学科） 大学の部活（音楽部，剣道 部，アメフト部，水泳部， 少林寺拳法部）</p>	<p>大学のサークル（よさとせ歌 舞輝，キャンパスネット， フットサルサークル，軽音 楽研究会，野球，韓国語の グループ，RevivaL，秋田 大学吹奏楽団，S.P.Y， ジョギンググループ） 大学の留学生（ベトナム人， マレーシア，交換留学生） 大学の寮（西谷地寮） 地元のサークル（ジュニア オーケストラ） 高校の時のサークル（Chi- Ting） 教会 バイト先（中国語教室，学習 塾）</p>	<p>軍隊（5699 部隊） 大学の寮の部屋（318，楡中 キャンパス 19#424-431， 浪人屋，寮の友だち） ホストファミリー 家族（家族，ワンカマル，朴 家） 友人関係（基本，小学校：優 子，中学校どためん，高 校：あつまるべ・F4・ Healings・高校友達，特 別家族，李さん，幼馴染， 高校のクラス 308 班， 彭） 社会（社会と私）</p>
---	--	---

さまざまなコミュニティが選ばれており，またたとえ同じマレーシア人留学生のグ

グループを選んだとしても、そこでどうやって活動してきたかまたこれからどうやっていきたいかは、一人ひとり違います。

このクラスでは 1 学期をかけて、グループメンバーと話し合いながら、自分にとって大切なコミュニティについてのレポートを書いてきました。私がこのクラスの授業設計者としてめざしてきたことは、まず第一に、自分にとって大切なコミュニティについて考え書いていくことで、みなさん一人ひとりに、コミュニティに対する今の自分自身の思いを見つけてもらうことでした。そして、それぞれの大事なコミュニティとそれに対する思いを知っていく中で、先に挙げたような文化観・人間観をもってもらいたいと考えていました。また、一緒に話し合いながら書いていくプロセスによって、クラス／グループ／自分とコミュニケーションし新しいコミュニティを創造する、その実際の経験の場を作りだし、新しいコミュニケーション観や言語観も得てほしいと願っていました。何人かの学生は最終レポートの感想の中で、このクラスでのグループが自分にとって新しいコミュニティになったと書いてくれましたが、このクラスでの私自身の目標の一つが達成できたということであり、とてもうれしいです。

ですが、コミュニケーションはいつもうまくいくわけではありません。上に挙げたような表現観をもっておらず、グループメンバーを全員同じであるかのように扱ったり、偏見をもって差別する人もいます。そういう人は、あるグループの人が何かを伝えようとしても、聞く耳をもたないかもしれません。そして制度や構造の問題もあります。強い力を持つ人が弱い人の発言を封じ込める制度や構造（たとえば部下が上司に違う意見を言えば会社をやめさせられるといったルール）といったものがあります。だからコミュニティを全メンバーにとってよりよい場に創っていくのは大変難しいことです。

一体どうすればよいのでしょうか。私が最後にもう一度伝えておきたいのは、たとえ画一化や偏見・差別をもっている人が相手であっても、どんなに聞く耳を持たなくても、いろいろな方法で自分の思いを伝えていってほしいということです。思いを伝えるにくくさせる制度や構造といった大きな問題にも注意を払いながらも、しかしそうした制度・構造をすこしずつ動かしていくのも、一瞬一瞬のまたは日々の他者（自分の中の他者も含め）に対するコミュニケーションではないでしょうか。

制度や構造は強大な力をもつので、今後もみなさんはコミュニケーションしていくのを阻むような他者やコミュニティに出会うと思います。ですが、自分の思いを伝えつづければ同じ思いをもつ人に出会うこともできます。制度・構造をよく分析しながら、仲間と協力して周りに働きかけていってください。時には戦う勇気をもってコミュニケーションを行うことが、メンバーにとって居心地の良いコミュニティ創造につながっていきます。